

鹿沼市庁舎整備検討委員会第1回会議 議事録

日 時：平成24年10月15日（月）午後2時00分～3時15分

場 所：鹿沼市役所 新館3階302会議室

出席者：鹿沼市庁舎整備検討委員会委員

1号委員：三橋伸夫、大塚晴久

2号委員：富久田耕平

3号委員：黒川義久、瓦井伸一、木村剛考、井戸道廣、大橋廣美、福田弘之、
福田七右衛門、斎藤利恵、沼馨、大塚美津子、渡辺美子、松崎清子、
永田由美子、松島良子、風間教司、伊藤進太郎

4号委員：松山裕

（欠席者 3号委員 山菅昭八、鈴木康子）

佐藤市長

事務局 6名

議事内容

1. 開会

- ・事務局による開会

2. 委員紹介・委嘱状交付

- ・委員および事務局の紹介
- ・市長から委員へ委嘱状の交付

3. 市長あいさつ

- ・市庁舎は本館、本館増築棟、議会棟、新館棟、東館の5棟で構成され、建築後、それぞれ4年2年から5年4年が経過しており、昨年度実施した耐震診断の結果は、震度6強から7の地震に対して、倒壊する危険が高い、あるいは倒壊する危険性があるという結果であった。
- ・市庁舎には市民生活に関わる多くの機能、大切な情報が集約されており、災害等有事にはこれらを守り、市役所としての機能を維持しつつ、防災拠点としての役割を果たす必要がある。
- ・敷地、建物の狭あい化や分散化、ICT化やバリアフリー化対応への限界、施設や設備の老朽化による維持管理費の増大など様々な問題を抱えている。
- ・市民の利便性の向上と、市民サービスの効率化を図るとともに、まちの中心施設としてまちの活性化に寄与できる施設となることを強く望んでいる。
- ・委員の皆様には、庁舎整備に関する基本的な構想の検討をお願いしたい。そして、その結果を生かし、より実効性のある構想を策定したいと考えている。

4. 鹿沼市庁舎整備検討委員会要綱説明

- ・事務局より要綱の説明（別添要綱のとおり）

5. 委員長・副委員長の選出

- ・沼委員より事務局案の有無の確認。
- ・事務局は、大田原市および下野市の庁舎整備検討委員会の委員長を歴任し、また、住民参加に基づく建築・地域計画の手法に精通され、多様な観点から当委員会を運営していただければと思われる三橋委員を委員長として推薦する。また、公益財団法人とちぎ建設技術センター常務理事として、県内の公共建築および建築行政に精通し、技術的な面からも委員長を補佐していただければと思われる大塚委員を副委員長に推薦する。
- ・全会一致で決定

6. 委員長あいさつ

- ・市庁舎の整備は、市民の関心が非常に高く、行政にとっても市民サービスの拠点をどう整備するかという課題であり、重大な責任を当委員会に託されていると認識している。
- ・委員の皆様のご意見をまとめられるか多少不安を感じているが、重要な事柄であるため、委員の皆様のご率直で忌憚のないご意見を伺い、また、慎重かつ大胆な議論を進め、最善の案を取りまとめて市長へ答申したいと思っているので、委員の皆様のご協力をお願いしたい。

7. 諮問

- ・市長から三橋委員長に庁舎整備のあり方等について諮問

8. 議事

- ・三橋委員長より、鹿沼市審議会等の会議の公開に関する要綱第6条第3項の規定に基づき、傍聴者は会議の秩序の維持に努めてほしい旨の説明。

(1) 本庁舎および東館の概要について および (2) 本庁舎および東館の耐震診断結果について 事務局より一括して説明

- ・本館、増築棟、新館、議会棟、東館の構造、耐用年数、建築後経過年数、床面積を説明。また、主な建物付属設備の耐用年数を説明。
- ・建物より付属設備のほうが、老朽化が早く、メンテナンスを適切に行わないと建物の寿命も短くしかねない。
- ・いずれにしても、市庁舎の付属設備は老朽化が激しく、いつ故障をしてもおかしくない状況である。
- ・平成23年度に実施した本庁舎および東館の耐震診断結果について説明。
- ・本館増築棟および議会棟は震度6強の地震で崩壊、倒壊する危険性が高く、本館、東館および新館については、震度6強の地震で崩壊、倒壊する危険性がある。
- ・公共施設では、災害時に拠点となる施設は目標値0.75以上、災害対策活動の拠点となる施設は目標値0.9以上の構造耐震判定指標が求められる。
- ・本館、本館増築棟、東館、議会棟は、IS値やコンクリートの中性化により、耐震補強による機能面の低下、経済性、防災拠点である建物の重要度、今後の耐用期間などを総合的に勘案すると、建替え等の抜本的な対策が最善という審査結果を受けている。
- ・新館については、IS値が構造耐震判定指標の0.75を1階と2階において下回っているが、コンクリート強度は確保されており、中性化も進んでいないため、耐震補強によって耐震性が確保されると見込まれる。
- ・耐震診断結果は妥当性の確認のため、第三者機関の「社団法人 栃木県建築士事務所協会 耐震診断・補強計画判定会」に評価を依頼し、正式な評価結果を受けている。

○質疑応答

福田（七）委員：東日本大震災時の震度および庁舎の被害状況はどうであったか。

事務局：鹿沼市の最大震度は震度5強であった。震度5強は晃望台であり本庁舎付近では震度5弱である。また、被害状況であるが、本館、本館増築棟に5ミリほどのクラックが2、3箇所ほど入った。

(3) 現庁舎の現状と課題について 事務局より説明

- ・ 庁舎整備検討委員会に対し、庁舎整備問題の検討に必要な情報などを提供するため、庁舎整備検討委員会の下部組織として、庁内の職員で庁舎整備検討ワーキンググループを設置している。
- ・ 現状と課題として、耐震性の不足による防災拠点機能への不安、施設・設備の老朽化による安全性・経済性の低下、狭あい・分散化による市民サービスの低下、ユニバーサルデザインへの対応の限界、高度情報化への対応の限界、環境負荷低減への対応の限界の6項目が挙げられている。
- ・ 会議終了後、現庁舎の現状を確認していただくため、現場をご覧いただく場を設けている。

○質疑応答

なし

(4) 構想策定スケジュールについて 事務局より説明

- ・ 検討委員会は、本日から平成25年度いっぱいにかけて基本構想（案）をまとめていく予定。
- ・ 25年度の9月から10月にかけて世論調査が予定されており、庁舎整備に関して市民の意見を調査する予定。
- ・ 検討委員会は、今回を含め平成24年度に3回、平成25年度に6回を予定している。
- ・ 平成25年度の前半には庁舎の規模や位置、整備時期など庁舎の整備手法について協議、後半には世論調査の結果を踏まえての検討や基本構想案の協議をしていただく予定。
- ・ 進捗状況により回数の増減や協議内容の前後などがある。

○質疑応答

三橋委員長：本日は1回目の検討委員会で、庁舎の現状と課題、耐震診断結果についての報告や、スケジュールについては平成25年度に2ヶ月に1回の開催予定であり、協議事項についても案として示されているが、委員の皆様のご意見はいかがか。

福田（弘）委員：これから検討委員会において庁舎整備の手法等を検討して方向性を決め、整備をしていくが、整備までの期間に震度6強の地震が起こった場合の対策はしてあるのか。

事務局：実際に地震が起きた場合は状況により異なる。庁舎が使用できるのかできないのかという判断をし、使用できれば庁舎内に災害対策本部を設置することが可能であるが、使用できなければ震度6強の地震にも耐えられる消防本部に災害対策本部を設置するというように、状況に応じて対応していかざるをえないと考えている。

福田（弘）委員：市民生活に直接響くことなので適切な対応をお願いしたい。

三橋委員長：迅速な非難ができるよう日頃から避難訓練をするということも考えられる。早急には耐震補強をすることが本来の形だと思うが、それだけでもかなり費用が掛かってしまうので、庁舎整備の方向性などの議論と並行して行うということは財政的に非常に困難であり、市執行部においては非常に頭を悩ませていることと思う。ベストな対策をとっていくしかないと思う。

9. その他

事務局：次回の検討委員会は1月下旬頃を予定している。内容は庁舎に求められる機能について予定しており、詳細については12月中旬頃連絡する。

今回は報告事項が多く討議ができなかったが、次回以降は、皆様から活発に意見を出していただき、討議ができればと思う。

また、先ほどの震災の被害状況については、細かい被害等も出ているため、次回の検討委員会の連絡の際に別添資料としてお送りしたい。

10. 閉会

- ・閉会後に庁舎内を見学。10名ほど参加。